

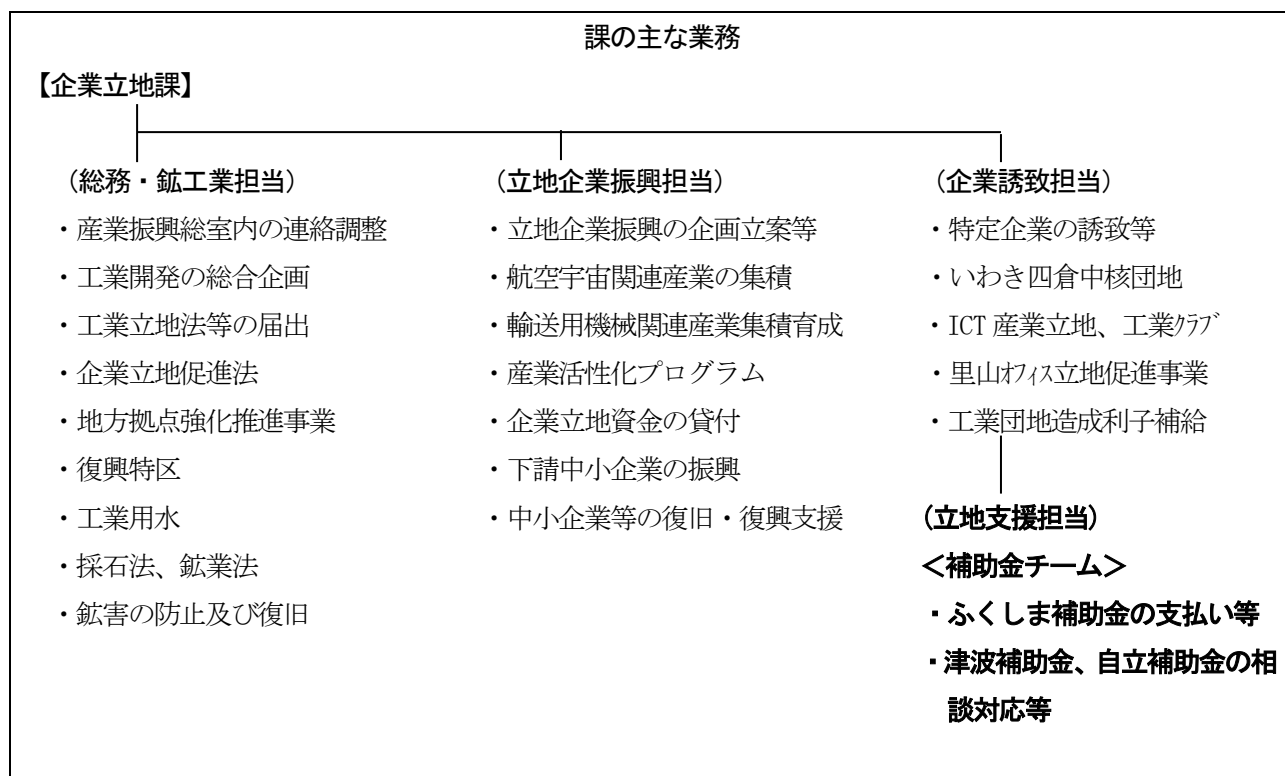
派遣先所属 福島県企業立地課  
氏 名 杵澤 俊夫 (くつざわ としお)  
派遣期間 平成27年4月1日～平成30年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の企業立地課は、総務・鉱工業担当、立地企業振興担当、企業誘致担当、立地支援担当（補助金チーム）の4担当で構成されており、平成29年11月1日現在で臨時職員を含めて20名が在籍しています。

このうち3名が自治法派遣職員で、派遣元は長崎県、山口県、埼玉県で、いずれも補助金チームに配属されています。立地企業の振興や企業誘致を始め、採石法・鉱業法関係から航空宇宙関連や輸送用機械関連の産業集積等、幅広い課の事務の中で、依然として復興関連の企業立地補助金等の執行額・業務量が多く、職員数の3割以上を占めています。

これまで2年間勤務した雇用労政課は県庁西庁舎10階の南側で、雄大な安達太良山や阿武隈川を朝夕眺めることができましたが、今度の事務室は北側で、正面に見える福島市のシンボル信夫山もなかなか落ち着く景色です。



主な担当業務は、県補助である「ふくしま産業復興企業立地補助金」に関しての、企業からの申請相談・受付や補助指定・支払及び事業完了企業の現地調査等の事務、「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金」、「自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金」の2つの国補助に関する企業からの事前相談対応等の事務です。

立地支援担当の副課長と、県職員2名と派遣職員3名の補助金チームの6名体制で、概ね地域別に業務を分担しており、各事業の概要は次のとおりです。

### (1) ふくしま産業復興企業立地補助金（ふくしま補助金：県補助）

東日本大震災により大きな被害を受けた福島県の産業を復興させるため、県内で工場等の新增設を行い、雇用創出を行う投資に対し補助を行うもので、これまで10回の募集をして、505事業の指定を行っています。

今年度は、第10次の募集・審査（42件）等の業務と、第9次までの指定企業に係る進捗状況調査や完了予定事業に係る事前相談、完了検査等の支払い業務がメインの仕事です。このほか、補助金支払済事業（平成28年度末375件）に係る現況調査や財産処分の事前相談や処分承認、返納処理等も結構な業務量となっています。さらに会計検査や不正受給事案への対応、現地確認調査の体制強化も当チームが直面する課題となっています。



福島復興ステーションHP（「ふくしま復興のあゆみ」p13より）

### (2) 津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金（津波補助金：国補助）

東日本大震災により被害を受けた津波浸水地域（青森県、岩手県、宮城県、茨城県）及び福島県全域（避難指示区域等を除く）を対象に工場等の新增設を行う企業を支援し雇用の創出を通じて地域経済の活性化を図ることを目的としています。これまで7回の募集をして、福島県分は176事業の採択がされています。

今年度は、これまで第7次の募集に関しての企業からの事前相談、県意見書作成（計35件）等の業務を行いました。

### (3) 自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金（自立補助金：国補助）

被災者の「働く場」を確保し、今後の自立・帰還を加速させるため、福島県の避難指示区域等（12市町村）を対象に、工場等の新增設を行う企業を支援し、雇用の創出及び産業集積を図るとともに、住民の帰還や産業の立地を促進するため、商業回復を進めることを目的としています。昨年度から始まった事業で、これまで38事業の採択がされています。

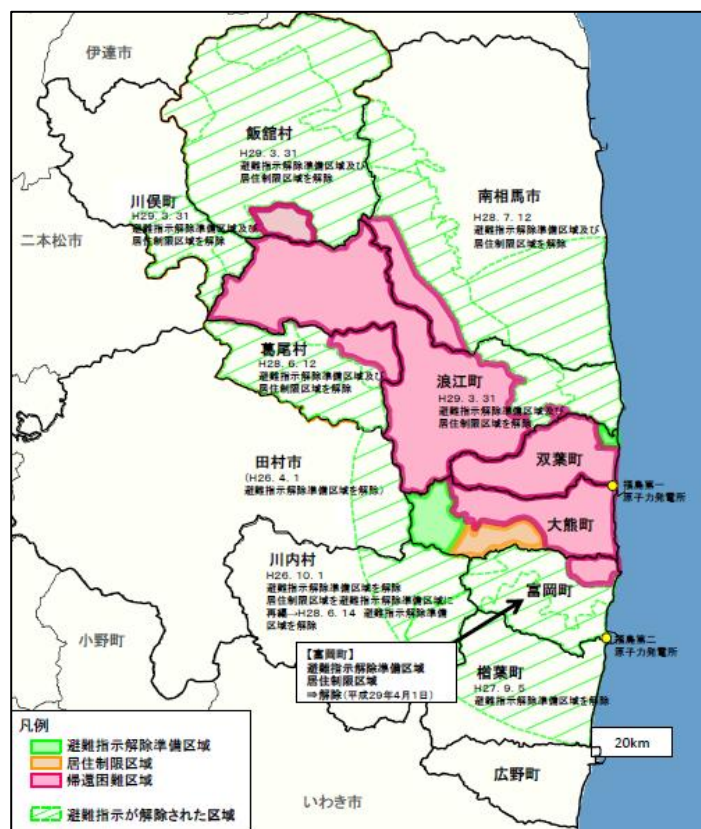
今年度は、第2次募集に係る事前相談、県意見書作成（計52件）等の業務を行いました。

### (4) 雇用確保支援事業

地域別に担当している3補助金のほか、関連業務の分担では、「雇用確保支援事業」を担当しています。

ふくしま補助金では、投資額に応じた新規地元雇用の確保とその継続した雇用求めています。製造業を中心とした厳しい県内の雇用者確保の状況等を踏まえ、新規地元雇用の確保と安定的な雇用維持のための業務委託を昨年度から開始しました。

今年度は、応募のあった25企業に対し募集・採用や定着等に関するコンサルティングを行うとともに、各種セミナー・企業ガイド配布・大学との懇談会等の事業を実施しています。



避難指示区域の概念図



大学・企業懇談会の名刺交換タイム

立地補助金の業務に従事して、昨年度まで携わっていた雇用助成金事業以上に、地域の復興の動きを具体的に実感でき、非常に意義を感じています。

他県からの応援職員等とは、会計検査が一段落した6月下旬に、会津若松、白河等をドライブして回り、いっしょに歴史ロマンと地域グルメを再発見するなど、様々な機会を通じコミュニケーションを深めています。

## 2 被災地の復旧・復興の状況

地震・津波被災地域のインフラ復旧等については、今年度も9月に商工労働部で自治法派遣職員等視察研修を開催していただき、環境創造センター（三春町）、J ヴィレッジ（楡葉町）、久之浜地区（いわき市）等を巡ることができました。

J ヴィレッジでは、再開に向けての工事進捗状況や、復興寄付金の募集等の話を聞き、久之浜地区では、「多重防壁」の総合対策の整備が進む様子などを視察しました。

昨年度の派遣職員視察の時は住民の帰還率が1割程度であった楡葉町も、現在は3割以上の住民が戻って、少しずつ復興が進む様子をテレビなどで見るにつけ、この2年半あまりの福島での時に想いを馳せています。

また、職場の同僚と7月末に「相馬野馬追い」に行き、3年連続で観戦することができましたが、震災後初参陣となる南相馬小高区からの騎馬武者達にひとときわ高い歓声が上がった場面などには、感慨ひとしおでした。

今、10月から約2か月間に渡って、三春町にある福島ガイナックスが事務局となり「マジカル福島2017」というアニメやロボットなどをテーマにした文化祭が県内各地で開かれています。11月下旬に浪江町で「十日町祭」が地元で復活するにあたり、このマジカル福島2017の一環として、救助ロボットが活躍するアニメ「レスキューアカデミア」の新作上映会などを同時開催されるそうです。「イノベーション・コースト構想」の夢を広げるこのサブカルチャー・イベントにも是非行ってみたいと思っています。



マジカル福島2017HPより

『人力戦艦！？汐風澤風』 ©小名浜まちづくり市民会議/福島ガイナックス

『フライングベイビーズ』 ©福島ガイナックス

『レスキューアカデミア』 ©福島ガイナックス

『7代目小原庄助子』 ©福島ガイナックス

『政宗ダテニクル』 ©福島ガイナックス/福島県伊達市

『みはるのハルミーゴ』 ©三春町・月眠・福島ガイナックス

### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島 2 度目の冬は、妻と雪景色の只見線に乗って、会津柳津町の雪まつりを堪能しました。この冬の会津の版画で有名な斎藤清の展示が、12 月まで信夫山麓にある県立美術館で開催されています。



県立美術館

63 歳からの作品「会津の冬」シリーズ全 115 点などを観て、益々盛んな晩年の創作活動とそれを支えた奥会津の魅力に改めて感じ入りました。

定年後の 3 年目も福島県で過ごさせていただき、来年には戊申 150 周年を迎えるこの時を想い、福島市の街中で出会う全国からの旅人達との一期一会も楽しみながら、人生の第 4 コーナー目前の日々を充実して過ごしています。